A002-003 **会場: 201A** **時間: 5 月 17 日 10:55-11:30**

日本の惑星探査： 過去、現在、未来

Planetary Explorations of Japan: Past, current, and future

佐藤 毅彦 [1]
Takehiko Satoh[1]

[1] JAXA 宇宙研
[1] ISAS/JAXA

飛翔体による日本の月惑星探査は 1990 年「ひてん」と「はごろも」月周回、1998 年「PLANET-B のぞみ」火星探査、2007 年「かぐや」月探査と、10 年弱に一回のペースで行われてきた（いずれも、打ち上げ年）。太陽系探査としては 1985 年にハレー彗星へ向った「さきがけ」と「PLANET-A すいせい」、2003 年の「はやぶさ」小惑星探査も含め、およそ 5 年に一回のペースということになる。今後は PLANET-C 金星探査（2010 年）、BepiColombo 水星探査（2014 年）、SELENE シリーズ月探査、「はやぶさ」シリーズ小天体探査が続く。さらに木星磁気圏を目指す「国際協同木星圏総合探査」への参加も進められている。

PLANET シリーズは A の「すいせい」では成功、B の「のぞみ」は失敗に終わった。続く PLANET-C 金星探査プロジェクトで再び大成功を勝ち取るべく、メンバーは一丸となって最後の試験・調整作業に取り組んでいる。一方、火星探査への再チャレンジの動きもある。太陽系探査ロードマップ（2007 年 5 月発行）には、将来火星探査として「着陸機やペネトレータによる火星表面・内部構造探査」、「火星気象衛星」、「火星大気散逸観測」が挙げられている。いま、これらをまとめた火星複合探査を 2010 年代後半に実施しようという気運が高まり、そのためのワーキンググループが立ち上がった。

本講演では、活発さを増す日本の惑星探査の現状、世界の惑星探査の中での位置づけなどについて紹介する。